

SL-GMS C++/Developer の新しいエディションで、 64 bit ネイティブ Red Hat Enterprise Linux にフル対応

最新の Windows 版 SL-GMS C++/Developer では、Microsoft Visual Studio 2013 をサポート追加

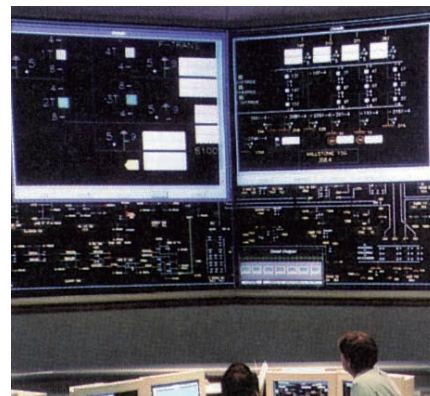
2014年9月3日 プレス・リリースより:

リアルタイム・データのグラフィックな可視化と監視で業界をリードする SL ジャパンは、64 bit ネイティブ Red Hat Enterprise Linux 6 をフルサポートする SL-GMS C++/Developer の新しいエディション製品をリリースしました。この新製品によって、SL-GMS ユーザは 64 bit Red Hat Enterprise Linux OS をフル活用し、最も高度な監視制御システムを開発して運用することができます。

Windows 版 SL-GMS C++/Developer の 64 bit エディション製品は 2011 年にリリースされており、今回合わせて Microsoft Visual Studio 2013 に対応した最新バージョン 6.5 を、32 bit ならびに 64 bit 版両方でリリースしました。

★本プレス・リリース全文:

http://www.sl-j.co.jp/newsevents/pressrelease/2014/sl_j_press_140903.shtml



Java ベースの SL-GMS J/Developer と J/Net の新バージョン 4.3a をリリース

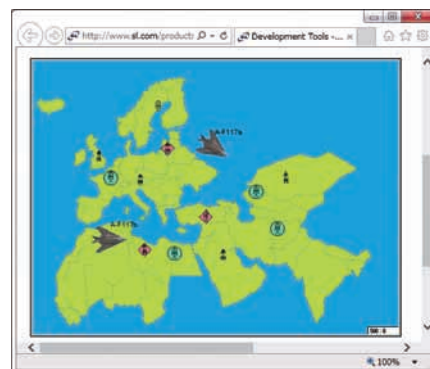
種類なく Web 運用に強い監視制御システムの開発をさらに支援強化

2014年6月25日 プレス・リリースより:

SL ジャパンは、新たに JDK 1.8 をサポートした SL-GMS J/Developer ならびに J/Net 製品の新しいバージョン 4.3a をリリースしました。SL-GMS J/Developer は、Java をベースにした監視制御システムのリアルタイム・ダイナミック GUI/HMI 開発ツールで、J/Net はネットワーク管理に特化した拡張オプション製品です。

SL-GMS J/Developer では、SL 社が長年培ってきた監視制御システムにおける描画技術とコード生成技術をベースに桁違いにコンパクトで高速な Java コードを実現しており、1998 年にリリースされて 15 年以上経った今も、他社の追随を一切許していません。以来、世界で数々の監視制御システムが SL-GMS J/Developer を使い、制御室や管制センターを越えて企業内外に Web 運用展開されてきました。今回の新バージョンのリリースは、この開発と Web 運用を引き続き支援強化するものです。

★本プレス・リリース全文: http://www.sl-j.co.jp/newsevents/pressrelease/2014/sl_j_press_140625.shtml



この Java アプレット・デモへのリンク

RTView の新バージョン 6.4 で現行版 Splunk に対応した他、 性能監視システムのカスタム構築で各種機能強化

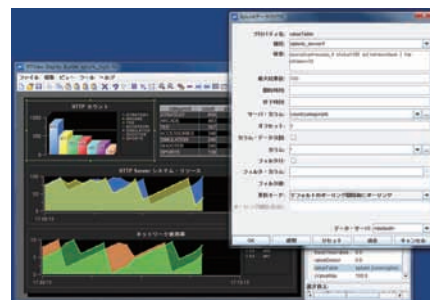
ディスプレイ・サーバによるシンクライアント運用、キャッシュとアラート、コントロール・オブジェクトと関数などの機能で拡張

2014年9月24日 プレス・リリースより:

SL ジャパンは、RTView の新しいバージョン 6.4 をリリースしたことを発表しました。このリリースでは、最新の Splunk バージョン 6+ に接続できるデータ・アダプタを更新した他、ディスプレイ・サーバによるシンクライアント運用でピュア HTML5 トレンドグラフならびに Windows 版 Google Chrome のサポートを追加しました。その他、キャッシュとアラート、コントロール・オブジェクトと関数などの機能で拡張し、サービスやオペレーションに応じた「カスタム」性能監視システムの容易な構築と運用を、より一層強力で支援します。

RTView は、ログや運用管理ツールなどからのさまざまな既存の性能と可用性データに接続し、ビジネスやサービスと関連付けてリアルタイムに可視化して監視できるダッシュボードを、ポイント & クリックのビルダーを使って対話的にカスタム構築できるツールです。

★本プレス・リリース全文: http://www.sl-j.co.jp/newsevents/pressrelease/2014/sl_j_press_140924.shtml



性能指標データのリアルタイムな可視化と監視でシステムを安定稼働する連携ソリューション

2014年8月22日 プレス・リリースより:

リアルタイム・データのグラフィックな可視化と監視で業界をリードする SL ジャパンは、同社の RTView 製品が、富士通株式会社の FUJITSU Software 連携パートナープログラムに登録されたことを発表しました。今回登録された連携ソリューションは、FUJITSU Software Interstage Application Server (以下、Interstage Application Server) ならびに FUJITSU Software Symfoware Server (以下、Symfoware Server) に RTView を接続し、高信頼・高性能な業務システムの運用状況をリアルタイムに可視化して監視することで、安定稼働を実現するものです。

Interstage Application Server にカスタム JMX データ・アダプタで接続した RTView によって、アプリケーション・サーバ運用時の指標データなどをリアルタイムにインメモリで集約し、グラフィックに可視化して RTView のアラートや対応アクションなどの機能とともに監視できます。さらに、Symfoware Server に SQL (JDBC) データ・アダプタで接続し、キャッシュ化したリアルタイム・データを RTView のヒストリアン機能によって Symfoware Server に永続化 (履歴化) できます。

★本プレス・リリース全文:

http://www.sl-j.co.jp/newsevents/pressrelease/2014/sl_j_press_140822.shtml

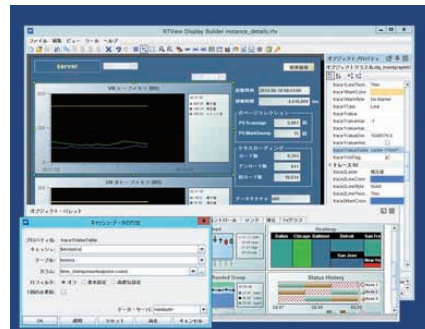
★本連携ソリューションのデモビデオ (4分19秒):

http://www.sl-j.co.jp/demovideo/ertv/RTView_Fujitsu-renkei/RTView_Fujitsu-renkei.html

【ご注意】 表示される性能指標データの詳細内容を確認する場合は、下記の「富士通株式会社 お問い合わせ窓口」からご連絡ください:

<https://software.fujitsu.com/cgi-bin/formoutput.cgi?FMT=/jp/contact/1>

RTView のビルダーを使って、Interstage Application Server と Symfoware Server に接続して監視ダッシュボードを対話的にカスタム設定



RTView のディスプレイ・サーバによるシンクライアントで、Interstage Application Server の稼働状態を Symfoware Server に永続化した履歴とともに監視



Application Performance 2014 講演レポート

SL ジャパンは、去る9月9日(火)に御茶ノ水 ソラシティカンファレンスセンターにおいて開催された Application Performance 2014 で、「サイロ化されたアプリケーション・インフラ監視からの打開事例とデモ～異種性能データに接続し、サービスやオペレーションに応じてカスタム構築～」と題し、SL ジャパンの代表取締役社長である羽島良重が講演し、事前登録でいち早く「満席」の人気セッションとなりました。

ネットワーク、データベースやアプリケーション・サーバ、ログなど、企業では市販または社内開発されたさまざまな運用管理/監視ツールが使われています。これらからのサイロ化された性能と可用性データをサービスやオペレーションに関連付けて一元可視化し、アラートと履歴とともにエンドツーエンドでリアルタイムに監視する「スマート・モニタリング」について、事例とデモを交えて解説しました。

実際に iPad で米 SL 本社にある RTView サーバにアクセスしてクラウドで稼働する異種アプリケーションを監視した他、DCIM(*) 適用例などのデモをご覧いただきました。そして、ポイント&クリックの RTView ビルダーを使い、性能データの集約と履歴化 (ヒストリアン)、監視ダッシュボード画面、フィルタリング、アラートと対応処理を「カスタム構築」し、Web 運用する実演を行いました。

(*)データセンター・インフラストラクチャ・マネジメント

★次は、10月15日から開催される ITpro EXPO 2014 で講演・出展いたします:

http://www.sl-j.co.jp/newsevents/ITproEXPO2014_seminar.shtml



米 SL 社の RTView ディスプレイ・サーバにシンクライアント機能でインターネット接続した iPad で、アプリケーション・サーバの監視をご覧いただきました。

Real-Time Visibility

年3回発行 2014年9月26日発行 通巻49号



株式会社 SL ジャパン

〒107-0062 東京都港区南青山3-8-5 アーバンプレム南青山 3階
Tel. 03-3423-6051 info@sl-j.co.jp www.sl-j.co.jp

◆記載される会社名・製品名は、各社の商標または登録商標です。
◆記載内容は予告なく変更されることがありますので、ご了承ください。
◆記載事項の一部または全部の無断転載を禁じます。